

チェックリストの記入に当たっては、「美しい都市づくりのためのデザインガイドライン」の該当ページを参照してください。

【デザインの基本的考え方】  ガイドライン P31

【記入例】  ガイドライン P81

敷地とまちとの関係性チェックリスト

対象地	戸田市
立地特性の読み解き  ガイドライン P9	対象地周辺の景観等について、読み取った結果を記入してください。 (周辺のまち並みの特徴、道路や公園などの公共空間からの見え方、地域の歴史や営み 等)
景観形成のコンセプト  ガイドライン P13	立地特性を読み解いた結果と、周辺との調和を考慮して、検討したコンセプトを記入してください。
景観資源への配慮  ガイドライン P14	敷地周辺に景観資源がある場合には、あてはまるテーマに応じた配慮のポイントを考慮して、具体的に配慮した点を記載してください。 【あてはまるテーマ】 <input type="checkbox"/> 水辺 <input type="checkbox"/> 緑 <input type="checkbox"/> 歴史・文化 <input type="checkbox"/> 人の集まる場所 (印をつけてください) <input type="checkbox"/> 暮らし <input type="checkbox"/> その他 ( ) 【具体的に配慮した点】

項目ごとのチェックリスト

デザイン上特に配慮が望まれるものが、配慮事項としてあげてあります。項目を確認し、配慮した項目については印をつけてください。また、配慮した点や配慮できなかった点（その他留意した点）について、記入欄に具体的に記載してください。

項目	景観形成基準と配慮事項	記入欄
A 配置	A-3 道路等の公共空間と周辺との関係を考慮し、ゆとりある配置となるよう配慮する  ガイドライン P36	具体的に配慮した点、配慮できなかった点を記載
	<input type="checkbox"/> 壁面の位置や塀の位置を隣とそろえる。 <input type="checkbox"/> 敷地内の空地は歩道と一体となるよう配置する。 <input type="checkbox"/> 建物の高さを隣とそろえる。	
	A-5 駐車場は道路から自動車が直接見えにくい配置とするか、植栽等により周囲の景観と調和した配置とする  ガイドライン P37	
	<input type="checkbox"/> 車庫開口部が通りに直接面しないような配置とする。 <input type="checkbox"/> 車庫開口部が通りに面する場合は、色彩や建物デザインを工夫し、車や路面が目立たないようにする。	
	A-6 敷地内には、地域の特徴づけにつながる緑や季節を感じさせる草木等を周囲との調和や中間領域におけるかかわりを意識し、配置する  ガイドライン P38	
	<input type="checkbox"/> 通りに面した所に植栽スペースを設ける。 <input type="checkbox"/> 出入口やコーナー部を緑によって特徴づける。	

項目	景観形成基準と配慮事項	記入欄	
形態意匠	B 外壁等	B-4 壁面はきめ細かな表情づくりを工夫するとともに、長大な壁面が生じる場合は単調にならないよう工夫する <span style="float: right;">☞ ガイドラインP40</span> <input type="checkbox"/> 凹凸をつけるなど表情を生み出すよう工夫する。 <input type="checkbox"/> 壁面を区分するように配慮した色彩とする。	具体的に配慮した点、配慮できなかった点を記載
		B-5 まち並みに調和したデザインとする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP41</span> <input type="checkbox"/> 周囲の建物の外壁と意匠上の共通点を設けデザインイメージを合わせる。	
		B-7 工業系施設の場合、親しみやすさとともに、特徴的な素材や形態をいかした景観の演出にも配慮してデザインする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP43</span> <input type="checkbox"/> 壁面にグラフィックを用いる場合は親しみやすさを生み出すよう工夫する。 <input type="checkbox"/> 建物内部の様子や活動が感じられるよう、閉鎖的になりすぎない開口部とする。 <input type="checkbox"/> 構造体や開口部をアクセントとなるよう色彩に配慮する。	
		B-8 中高層住居系施設や商業・業務系施設の場合、エントランス（玄関）は、わかりやすく印象的なデザインとする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP44</span> <input type="checkbox"/> デザイン上のポイントとなるよう形状や色彩を工夫する。 <input type="checkbox"/> 奥行きを感じられる空間とする。	
		B-9 敷地内の立体駐車場は、建物本体と調和するようデザインする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP44</span> <input type="checkbox"/> 形状や色彩を合わせるなど、建物本体との関連性を感じさせるデザインとする。	
		C-1 周囲の建物と調和するようデザインする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP45</span> <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、外壁の素材や色彩を考慮して突出しないよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 高所からの眺めに配慮し、屋根の色彩や素材に配慮する。 <input type="checkbox"/> 高所からの眺めに配慮し、屋上緑化を施す。 <input type="checkbox"/> 傾斜屋根や屋上緑化など、住宅地との関連性に配慮する。	
		D-1 室外機や屋上設備などの設備機器は、周囲との調和や中間領域におけるかかわりを意識し、目立たないよう工夫する <span style="float: right;">☞ ガイドラインP46</span> <input type="checkbox"/> 建築設備類や変圧器、分電盤等は極力建物との一体化を図る。 <input type="checkbox"/> 設備類が露出する場合は、壁面と同系色の塗装を施すか、あるいは逆にアクセント色で塗装する。 <input type="checkbox"/> 建物と一体的になっている工作物は、色彩等を工夫し総合的にデザインする。 <input type="checkbox"/> 広告・看板類は建物と一体的にデザインする。 <input type="checkbox"/> 出入口の看板は、植栽と一緒にするなど周囲も含めてデザインする。	
		D-2 外階段は建物と一体的に計画するなど、建物本体との調和を図る <span style="float: right;">☞ ガイドラインP47</span> <input type="checkbox"/> 外階段は、ルーバーで覆う、建物の一部に取り込む等の修景をする。	
		E-3 敷地の接道部は、閉鎖的な塀の設置は避けるなど開放的にしつらえ、ゆとりのあるデザインとする <span style="float: right;">☞ ガイドラインP48</span> <input type="checkbox"/> 境界部は生け垣等の緑を用い、緑を連続させる。 <input type="checkbox"/> オープンスペースを配置する。 <input type="checkbox"/> フェンスは植栽よりも建物側に設置する。 <input type="checkbox"/> 植栽やフェンスを道路から敷地内に引き込んだ位置に設置する。 <input type="checkbox"/> 塀・柵のデザイン等において、周辺と共通要素を持たせる。 <input type="checkbox"/> 敷地のコーナー部やエントランス周りは樹木や植え込み、花壇等の配置によりシンボル性を演出する。	

項目	景観形成基準と配慮事項	記入欄
形態意匠 E 外構・緑化等	E-4 駐車場の緑化、建物の壁面緑化等により、緑豊かな空間づくりに努める <span style="float: right;">☞ ガイドライン P50</span>	具体的に配慮した点、配慮できなかった点を記載
	<input type="checkbox"/> 芝ブロック等により、青空駐車場の路面が目立たないような工夫をする。 <input type="checkbox"/> 駐車場は道路から直接見えないように植栽で修景する。 <input type="checkbox"/> 建築壁面を部分的に覆うような植栽を工夫する。	
	E-5 敷地内に緑等がある場合は、できる限り保存・活用を図る <span style="float: right;">☞ ガイドライン P51</span>	
	<input type="checkbox"/> 既存の樹木は保全し、外構デザインの一部としていかなす。	
	E-6 工業系施設と住居系施設が隣接する場合、緩衝となる植栽を設けるなど近隣に配慮する <span style="float: right;">☞ ガイドライン P51</span>	
	<input type="checkbox"/> 隣接する施設との間に十分な空間を取り、低木や中木により立体的な緑を創出する。	
F 色彩	F-1 多色使い又はアクセント色の使用に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮する <span style="float: right;">☞ ガイドライン P53</span>	
	<input type="checkbox"/> 部位や外装材の変化と合わせて色彩を積極的に使い分け、スケール感を軽減する。 <input type="checkbox"/> 威圧感のある低明度色や派手で視界を遮るような高彩度色を大面積で使用しないようにする。	
	F-5 暖かみが感じられる色彩を基調とし、周辺との調和を図る <span style="float: right;">☞ ガイドライン P53</span>	
	<input type="checkbox"/> YR (黄赤) 系、Y (黄) 系の暖色系の色相で、中・高明度で低彩度の色彩を基調とする。 <input type="checkbox"/> 美観の維持に適した色彩となるよう配慮する。	
G 夜間照明	G-1 暖かみのある光源を用い、周囲と調和した夜間景観を演出するよう照明方法等を工夫する <span style="float: right;">☞ ガイドライン P54</span>	
	<input type="checkbox"/> 暖かみを感じる色温度の低い光源を用いる。 <input type="checkbox"/> 建物全体を照らすのではなく、壁面の間接照明を用いたり照明器具の設置高さを工夫するなど建物の大きさを感じさせないように配慮する。 <input type="checkbox"/> サインや屋外広告物の照明は上空への光漏れを防ぐため、上から下方向に光を当てる。	
	G-2 点滅・動光する誘目性の高い光源は使用しない。ただし、他の法令により規定されている光源や、景観上支障がないと市長が認めるものは除く <span style="float: right;">☞ ガイドライン P56</span>	
	<input type="checkbox"/> 法令等により規定されているもの以外に点滅・動光する光源を使用しない。	
	G-3 工業系施設と住居系施設が隣接する場合、過度な照明を控え、周辺に配慮する <span style="float: right;">☞ ガイドライン P56</span> <input type="checkbox"/> 周辺の住宅地への光もれに留意し、グレアを抑制する。 <input type="checkbox"/> 深夜は照度を落とすなど、やすらぎある光環境づくりに配慮する。	
その他	上記の項目以外でも特に配慮した点があれば記入してください。	